

浦和短 通信 介護の扉 第4号

浦和大学
浦和大学短期大学部



2015年10月17日
(土) 緑区区民まつり実
行委員会が主催する「第
13回緑区区民まつり」
が開催され、本学からは、
有志のクラブやサーク
ル、総合福祉学部・短
期大学部介護福祉科に
所属する学生が参加し
ました。

ステージでは、総合
福祉学部・植屋悦男教
授に指導された浦和大
学踊りプロジェクトに
よる「よさこい」等の
演舞がありました。また、
浦和大学・浦和大学短
期大学部のブースでは、
レクリエーション・イ
ンストラクターの資格
取得の一環として、介
護福祉科の学生が、こ
の日のために練習した
バルーンアートを披露
し、作品をこどもたち
にプレゼントしました。
学生たちは地域と連
携した活動に積極的に
参加しています。

国際福祉機器展で福祉機器に関する知識を深め、日常生活支援に活かす



国 際福祉機器展は、高齢者や障害者の自立や社会参加の促進、家庭や地域、福祉施設での介護の質の向上を目的として開催されます。福祉機器は、海外出展も含め約2万点を展示し、国際シンポジウムやさまざまなセミナー、出展者によるプレゼンテーションなども行われる、アジアを代表する国際展示会です。本学では授業の一環として、2年生の後期に国際福祉機器展を見学に行きます。今年も、10月8日(木)にバスをチャーターし、見学に行つてきました。

学生は、事前学習として生活支援技術の授業の中で、興味のある福祉機器について調べます。そして当日は、まず自分が調べた福祉機器が展示されている場所へ向かい、実際の福祉機器を見たり、説明を聞いたたりして学習します。その後は、会場内を自由に回って、さまざまな最新の福祉機器や福祉用具を見て回ります。サンプルも



介護福祉士は、自分の身体を使って高齢者や障害者の生活を支援することだけを仕事とするものではありません。介護を必要とする人たちが、できるだけ自分の力で日常生活を営めるように支援していく

ことが介護の基本です。その時に求められるのが、福祉機器に関する知識です。どのような福祉機器があるのか、その福祉機器がどのような障害に適しているものなのか、どのように使うのか、などといった知識も介護福祉士には求められます。そういった意味で、この国際福祉機器展の見学はとても重要な学習の場でもあります。

国際福祉機器展は毎年開催されます。福祉機器は、毎年開発が進んで行くものもあるため、この体験をもとに就職した後も福祉機器に対する興味を持ち続けてもらえればと思います。



Pickup Class

介護福祉科から、こんな事を学べます!

大学案内等では、あまり詳しく説明されないこと無い、介護福祉科の授業や実習について毎回詳しく説明します!

医療的ケア 担当：加藤英池子

法律の改正で、日常生活を営むのに必要な「たんの吸引」経管栄養等の支援(医療的ケア)を介護福祉士が行うことが認められました。介護福祉士養成課程で医療的ケアを履修し、その後「実地研修」修了をもって、介護現場で医療的ケアを行うことができます。

学科で行う医療的ケアの教育は、講義と演習から構成され、講義(50時間)修了者のみ演習が受講できます。演習では、身に付けるべき項目について、5回以上の実技の実行を教員が確認します。このため、数人の学生にひとりの教員がついて、丁寧に演習し、手技や高齢者への配慮を学びます。

この演習を指導できるのは、医療的ケア教員講習会等を修了している、5年以上の実務経験を有する看護師等です。学外の非常勤教員4名にも協力していただき、演習をしています。

学生は、人形や実際の物品を使用して、指導を受けながら、技術を習得します。学生は、実際の場面で観察すべきこと、また、どのように行えば、効果的で高齢者の負担が少なく、安全に行えるか考えながら、熱心に取り組んでいます。

職員間コミュニケーションと 研修頻度で二極化する離職率

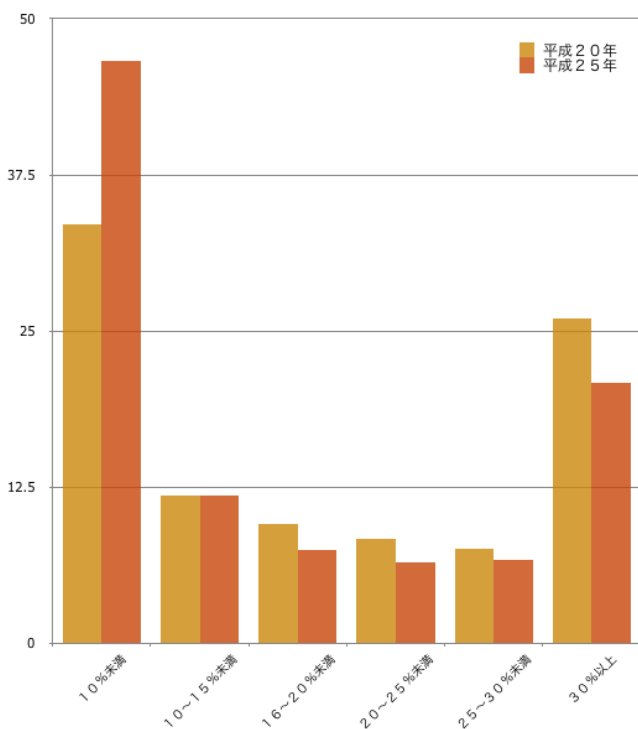


介

護について多くの誤解が社会にあることを、昨年、週刊誌『東洋経済』（5月17日号）が、特集記事「誤解だらけの介護職 もう3Kとはいわせない」で取り上げました。その誤解のひとつが離職率の高さです。

よく言われるように、厚生労働省

の「雇用動向調査」による全産業の離職率は平成20年から24年にかけて、14～16%で推移しており、同期の介護職の離職率16～18%はそれに比べると高くなっています。このことから、「介護職は低賃金で重労働であるため、辞めていく」と考える人も多いのです。しかし、



図：離職率別の施設の割合 資料『平成26年版 介護労働の現状1』

離職率の統計は、図のように、30%を超える高い離職率の施設と10%以下という低い離職率の施設に大きく分かれていきます。離職率が二極化していると言われている現象です。「浦短通信」第2号で紹介した施設のように、新人職員には、丁寧な研修をすることともに、年5回の上司面接を行って、コミュニケーションをとっている施設では、離職率は低くなっています。そして、平成20年から25年の間に、離職率の低い施設が増え、高い施設が減少しており、全体として改善傾向にあります。

介護職の働き方は、施設によって大きく異なっています。例えば、特別養護老人ホームの介護職で、夜勤勤務の月当たりの回数は、月2回以下の人が6%いる一方で、7回以上の人が5%います（『平成26年版介護労働の現状II』）。

本校では、こうした施設間の格差を学生に伝えていきます。そして、就職活動では、職員のキャリアアップの方針や制度等をきちんと説明していただき、良く考えて就職するように、学生に指導しているのです。

浦短 人語

介護福祉科学科科長によるコラムです。

介護福祉科学科科長から、世の中の出来事や考え方を、その背景や外側から眺めたりするコラムです。



夏休みに施設で実習した学生達に、秋の授業で体験の振り返りを書いてもらいました。ある学生は、実習の4日目に出会った高齢者との関わりを、次のように書いています。

「F様は車椅子に座っておられ、ただボーっとしていました。その様子が気になり、お話をしてみることになりました。最初はあまり話してくださらず、心を閉ざしている様でした。しかし、F様が好きな歌を歌ったり、親身に話を聞いていると、F様が急に泣き出していました。慌てて、「どうされましたか？」と聞くと、「たくさん話してくれてありがとう。あなたに出会えて幸せよ」とにっこり笑ってくださいました。私はその笑顔を見て、「こんなに幸せなことがあるのか」と、とても心が温かくなりました。」

実習では、技術的には未熟でも、高齢者と正面から向き合い、その人の尊厳を大切にすることで、高齢者に温かく迎えられる、人と関わることの「幸せ」を体験することができました。

技術を習得してベテランになり、仕事が忙しくなっても、「生の尊厳」という基本的なことを忘れない専門職に育って、実習で体験した「幸せ」を忘れないでいて欲しいと願っています。

短大からの編入で、2つの 国家資格の取得を目指す。

浦和大学 総合福祉部
平成27年3月介護福祉科卒業
伊藤 有紀 さん

高校1年の春、今も記憶に新しい東日本大震災が発生しました。当時、写真部に所属していた私は、被災地の方々に元氣付けるため、友人と共に街頭に立ち、街ゆく人から被災地を勇気付けるコメントを頂き、これを写真に収め、被災地に贈る活動をしていました。こうした経験から、徐々に福祉に興味を持つようになっていった私は、高校卒業後、介護を学ぶことにしました。

当時、福祉について何も知らなかった私にとって、福祉とは介護でありました。そこで、少人数制で介護を深く学べる短大ということから、介護福祉科への進学を決意しました。介護を学ぶにつれ、徐々に興味は広がり、より広く福祉について学びたいという思いが強くなり、総合福祉学部への編入を志すようになりました。浦和大学には編入を支援する科目等履修制度があり、短大にいなながら総合福祉学部の授業を履修することが

でき、取得した単位を持って編入できるという利点があります。私はこの制度を活用し、短大卒業後、総合福祉学部の3年次に編入しました。この制度を活用することで、4年間で2つの国家資格を取得することが可能となり、何より学びの幅が広がります。現在、総合福祉学部の3年生として福祉を学ぶ傍ら、障がい児施設でアルバイトもしています。今も福祉への興味は広がり続けています。



◆松崎久実学科長と伊藤さん

Information

**プレゼンテーションで自分自身を輝かそう！
介護福祉科のすべての入試で実施します。**

介護福祉科の入試では、AO・推薦・一般入試のいずれにも面接・面談があります。面接・面談の最初に、受験生によるプレゼンテーションをしていただきます。

プレゼンテーションは、現代社会を生きる若者に求められる思考力・判断力・表現力を試す、絶好の機会です。他者に、何かを積極的に伝え、同意や、共感を得ようとすることは、対人支援の専門職になろうとする者に不可欠な資質です。また、文部科学省が推進する高大接続改革が求める入学者の総合的な評価を実現するものです。プレゼンテーションの説明は、オープンキャンパスで毎回行っていますが、資料がありますので、オープンキャンパスに参加できない場合は、入試広報課に問い合わせ下さい。

オープン
キャンパスで
相談しよう！



浦和大学・浦和大学短期大学部
お問い合わせ **048-878-5536**
入試広報課 〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎3551

『介護の学校in埼玉』を 11月8日(日)に開校！



『介護の学校 in 埼玉』が11月8日(日)に開校されます。これは、埼玉県等の後援を受け、東洋大学・朝霞キャンパスで、埼玉県介護福祉士会と埼玉県介護福祉士養成施設連絡協議会が初めて合同企画した介護の学びを深める勉強会です。学生や地域の方々に、介護について理解し学びを深めてほしいという思いから、開催する運びとなりました。

メイン会場では、当事者・家族介護者が介護について熱く語ります。その内容を受けて、5教室で学びを深める15のプログラムが開講されます。福祉施設の施設長や介護にかかわる多職種の方々が授業を行います。また、介護職を束ねるマネジメントや、介護職以外の職種との連携や橋渡しを担う介護福祉士の上位資格である「認定介護福祉士モデル研修」修了者の方からもお話を聞くことができます。

学科の卒業生である宮本洋平さんが「学生・卒業生が自らの学びを熱く語る」という授業で発表します。介護福祉施設で働きながら感じている介護への熱い思いを他大学の学生や卒業生と語り合います。

また、学科の学生も当日参加することになっています。他大学の学生や地域の方と交流できる良い機会です。この機会を大切に多くのことを学びとってほしいと思います。